

この国は
何処へ行く？

参議院選挙への私の想い

「アベノミクスで株価上昇と景気回復！」の謳い文句は大変な「期待感」を国民に与えました。しかし、3年が経過し景気も株価も後退し、生活は依然良ならず、アベノミクスの呪文の効果も色あせつつある状況です。

こうした中であって、彼の悲願である「憲法改正」を何としても成し遂げようと、財政的整合性も持続性の確保も無視した「バラマキ」により、圧倒的多数を目論んでいることは、日本にとって誠に憂慮すべき事態に直面していると認識しています。

与党の失政もある中、民進党も国民の期待を担いきれていないと正直思いますが、今夏、安倍政権に「圧倒的多数」を与えてしまうことだけは、何としても阻止しなくてはなりません。

彼の言う**戦後レジームからの脱却**は、もはや戦後でなく本当に新たな「戦前」体制へ本気で向かおうとしていると感じてしまうのは、私だけでしょうか？

「平和憲法が戦争の番人である国」
を変えたくありません。

世界の平和を願う多くの人々の努力に反して、「話し合いで解決をめざす方法」を放棄したり否定したりする勢力も、誠に残念なことに向に衰えを知らない近況です。

テロなどの「暴発勢力」から国民の命と財産を守るための防御は必要と考えます。しかし、そうしたことを「口実」にして過去には戦争につながってきていることは歴史が証明していますし、私はこれを忘れたくありません。「自衛隊」は、その名が示すとおり「専守防衛」からはみ出すべきではありません。



4月2日の安保法制反対集会（高崎）

「命を守ることに保守も革新もない！戦争につながる危険な動きにはNO！」という気持ちで参加した集会。「野党統一候補で参院選を勝利しよう！」とは、シールズの若者のあいさつ。自分で出来ることを悔いなく！と誓う。

「経済活動だけが幸福の万能薬」
ではないと思います。

「世界を股にかける企業や偉人」の恩恵によって世の中の大半の問題解決を図ろうとする方法では、「歪みや格差」の拡大を生み「限界」も見えてきています。

遠い国やお金持ちのための「一攫千金」を狙うようなビジネスモデルを「熱狂」させることよりも「顔の見える距離」で、人々が誠実で正直な仕事や商売をすることを推奨していくべきです。

未だ困難の真っ直中であることを直視せず、「原発の安全神話」の復活を急ぎ、多国籍企業の圧倒的優位となるTPP交渉の批准を急ぐのも、経済万能の呪縛を解こうとしない現れと考えます。

若者もお年寄りも「今の不安定と将来の不安」に怯えて暮らしています。

人間を機械の部品のように酷使し、壊れたらポイ捨てできる「法律」を矢継ぎ早に可決させ、疲れ切った働く世代に「子育ても介護」も背負わせ、応分の処遇すら与えなければ、生きがいや働きがいを実感できる職場も、幸福の実感できる社会も実現できるわけがありません。

ホセ・ムヒカ氏の名言「お金が大好きな人は、ビジネスや商売のために身を捧げ、富を増やそうとするものです。しかし政治とは、すべての人の幸福を求める闘いなのです。」納得です。

高柳かつみと

2016年 春期 NO52号

歩む会ニュース

発行責任者 高柳 勝 巳 〒378-0055沼田市柳町2570-11 割田アパート2号 ☎ 22-6860
ホームページ <http://www.ayumu-kai.jp/> Eメール xx.takayanagi-po@au.wakwak.com



←昭和39年に建てられた現在の沼田
市役所は築52年と
老朽化が著しい。

IS値0.21と
耐震の面でも極めて
危険な庁舎に災害対
策本部が置かれてい
ることも、大きな問
題と考えます。

同様に東原庁舎も
築54年と危険です。

「基本設計」段階で
の総工費約41億円の
沼田市の新たな「複合
施設」のイメージ図→
今から23年前の平
成5年沼田サティとし
てオープンしました。
時代に合った市民み
んなの施設となること
を切望して止みません。



グリーンベル21関連の私の賛成討論
返済計画への一考察
6階・7階の配置案への私の考え
市民協働のまちづくりについて
予算審査特別委員会概要報告

保健福祉センター、東原庁舎について
市営住宅の入居優先基準の設定
低所得高齢者等住まい・生活支援モデル事業
この国は何処へ？
参議院選挙に想う



◎保健福祉センター管理事業

4億1,719万8,000円

その内、**3億8,561万6,000円**は、大規模（空調）改修事業分となります。

築21年が経過し、経年劣化による空調設備が抜本改修が必要と説明がありましたが、何分高額なため多くの質疑が寄せられました。

高額になる理由や工事内容等の詳細について聞いていましたが、答弁する方も専門家ではない為か、残念ながら納得度は…？

指定管理者制度の問題も

平成26年4月1日から平成31年3月31日

5年間で3億6千万円余



収益の見込める施設なら…

福祉の拠点「保健福祉センター」を複数の管理希望者同士で競わせて、「福祉の質の向上」は望めるのでしょうか？

しかも、現在の受託者である社会福祉協議会は当然、福祉サービス提供のプロです。

ビルの管理や警備を得意としている訳ではありません。この二つを同時に充足できる器用な「事業者」は、そう多くは存在しないと思われます。

無理をすれば、そのしわ寄せや歪みは、福祉の受け手である「利用者」か、その担い手である「労働者」へ波及することになります。

そもそも、指定管理者制度導入の目的は、得意な分野で、質の高いサービスをきちんと提供してもらうことだったはずです。

こうした「実態」を受け、総務省から平成22年冬に、その運用についての指導文書が発出されています。議員・議会としても、その在り方や運用方法等について、しっかりチェックしていきたいと思います。

◎東原庁舎管理事業

18,241,000円

1階：社会福祉課、高齢福祉課（高齢福祉係・介護保険係）、子ども課、家庭児童相談室。

2階：生活課、消費生活センター、環境課、エネルギー対策室、高齢福祉課（包括支援センター）

管理費に大きな変動はありませんでしたが、こちらも空調設備改修に約800万円が計上されていました。高齢者や障害者の方々が多く利用する施設ですから、改修は同意します。

でも、もっと早くグリーンベル21への移転を決断していれば…、と思います。



いっそ保健福祉センターを 障害者福祉の複合施設に！？



指定管理者制度も、もちろん大きな課題ですが、私はもう一つ課題があると考えています。

現在、保健福祉センターで仕事をしているのは、健康課、社会福祉協議会、市民活動センター、子ども広場、重度心身障害者デイ・サービス事業、第1・2福祉作業所、障害児通園施設などです。

市民活動センター、子ども広場はグリーンベル21へ移転が決まっています。では、その他はこのまま保健福祉センターへ残留のままで良いのでしょうか？

どんな業務やサービスを、どう組み合わせたら「最良」のマッチングで、効率的・効果的になるのでしょうか？今後どうしていくべきでしょうか？

私は、ここを障害者福祉のために利用していくことも、重要な選択肢ではないかと考えています。

返済計画②

合併特例債35億円の返済

合併特例債活用は今だけ

合併した市町村が、新市建設計画に基づき実施する事業のうち、特に必要と認められる事業に対する財源として、借り入れることができる地方債（借金）のことをいいます。

合併特例債の活用は、延長によっても平成32年度までに限られます。

活用する事業費のおよそ95%（充当）まで借り入れ可能で、借り入れた地方債の元利償還金の70%が普通交付税によって措置されます。

下の表は、私が勝手に算出してみた返済シミュレーションです。

改修総額実費44億2,800万円 (消費税込)	
庁舎部分等合併特例債 対象率85%	37億6,380万円
	↓
充当率95%	35億7,561万円
	↓
20年ローンの年額 (利子1.2%)	<u>1億8,926万円</u> 毎年この額は返済する
	↓
合併特例債への 国の交付金(2/3)	1億2,617万円
	↓
国の交付金差引後の 沼田市実質負担年額	6,309万円 (実質的な返済年額)

市役所移転は重要案件なので

特別議決案件（3/2の賛成が必要） 議案第34号 沼田市役所の位置条例の 一部を改正する条例

グリーンベル21活用基本構想を平成27年10月1日に策定し、沼田市役所庁舎をグリーンベル21に移転するため、地方自治法第4条第1項の規定に基づき改正するものです。



議長を含む20人で採決の結果は？
賛成18人、反対2人でした。
反対の意見では、「時期尚早」ということでしたが、私は、今後早急にテナント誘致していくことも考慮し賛成しました。

私の 賛成討論概要

平成28年度沼田市
一般会計予算NO2
～財政規律・財政運営～
平成28年度一般会計予算

の規模は、219億941万3,000円としました。

一方歳入では、市税が61億3,934万3千円、構成比は28%で、市民税も固定資産税も減収という中、繰入金は、財政調整基金ほか5基金及び特別会計繰入金を合わせ9億1,491万9千円で、2年連続の高額な繰り入れです。

これにより、財政調整基金の予算時点での残高は、24億9,123万円で、繰入金7億9,166万9千円を繰り入れ、差引残高は16億9,956万1千円という状況になります。

私も、財政基盤の脆弱な本市では、無駄も浪費も厳に慎まなくてはいけないと考えています。

しかし、アベノミクスによる景気浮揚政策も、株価が踊るように乱高下し、格差が拡大するだけで市民の生活状況は悪化し続けています。

こうした状況下に鑑み、日銀の金利にマイナスがつく超低金利状況であること、さらに合併特例債の活用にも期限があること等を踏まえ、万が一の為の基金積み立てに固執するよりも、これまでの行政の不作为に終止符を打ち、劣悪化した市民生活の下支えや、遅れていた重要事業の再開の為の「スタートダッシュ資金」と位置付けた新年度の「予算編成の基本的フレーム」を高く評価致します。



◎3・3・1環状線（栄町工区）

2億6,809万4000円

長年、事実上ストップしていた利根実前の環状線。懸案の所有者との調整も進み予算も計上され、危険な状態で辛うじて繋がっていた道路は、安全が確保され渋滞も解消される見通しが立ちました。（お金の使い方の考え方？）

私の賛成討論概要

平成28年度沼田市一般会計予算NO1
グリーンベル21管理事業5, 798万4, 000円。これは、光熱水費を中心にした管理費とテナント出店へ向けた旅費などが計上されています。
グリーンベル21整備事業（実施設計業務委託料）1億2430万7000円。これは、約41億円と概算計上された「新複合施設」を目指すグリーンベル21の設計図の作成代金となります。

私は、沼田市役所の集約施設改修費に約41億円を使用するのではなく、市民が主役の多様な活動を具体化する「新型の複合施設」へ沼田市役所も同居し、その活性化の一翼を担う、ということを市民の皆様にしちんと理解されて、はじめてその真の価値が発揮できると捉えるべきと考えます。

4月以降、その忙しいスケジュールでも、市民意見を可能な限り取り入れながら実施設計に向かっていく姿勢も評価いたします。

しかし、改修概算総額41億円は、破格の出費であることは間違いありません。

このうち行政庁舎スペースは約48%の19億7千万円で、半分以上の面積を、商業を中心としたビジネスとしての活用、さらには市民の皆様方へ積極活用をしていただくためのスペースであることを、きちんと整理し市民に分かりやすく説明していくことが、求められます。

また、返済のための財源の裏付けについては、総額の85%、約35億円は合併特例債の対象となることが見込めること、残りの6億円の内、既に4億円は基金として積み立てられていることなどを、キャッシュフロー含め丁寧に説明していくことを切望いたします。

改修費総額41億円は、単に額面が高額か低額と捉えず今後、それだけの価値が生み出せるか否かで推し量るべきと考えます。

平成5年に、商業施設「沼田サティ」として開業したこのビルは総工費約108億円で建設され、当時、固定資産税評価額は20億円と算定されました。

私は、利活用次第でこのビルは、これだけの「価値」を生み出せると考えました。行政機能の集約化・高度化、市民活動の充実や拡大が成否の分岐点になると思います。

合併特例債対象	庁舎整備基金 ＋一般財源？	改修総額
35億円	＋ 6億円	＝ 41億円

返済計画①

庁舎整備基金額は
本年3月末現在4億円
積み立てられています。
新施設の共用開始予定が2～3年後になることから、同様のペースで積み立てると、基金総額は、**6億円**前後になると思われます。
また、平成15年度から沼田市にとって大きな負担となっている「望郷ライン」への年額、**2億7,500万円の返済金**が、新たな返済が始まる前の、平成30年度には完済になります。

新複合施設総延床面積＝24, 216㎡		
市役所庁舎部分	市民活動部分	商業等出店部分
延べ床面積 11, 624㎡ (48. 2%)	延べ床面積 9, 057㎡ (37. 4%)	延べ床面積 3487㎡ (14. 4%)
改修費総額40億9千万円		
19億7千万円	15億3千万円	5億9千万円
1㎡あたり工事単価		
18万2千円/㎡	15万9千円/㎡	15万6千円/㎡

今年1月に庁舎工事発注した富岡市の場合総額38億6, 424万円（消費税込み）3階建て、延べ床面積約8, 400㎡で、**1㎡あたり単価約46万円**となります。庁舎の建設費は、近年に建てられた事例を見ても50万円/㎡が中心となっています。

非常に大雑把な表現ですが、新築と比較して三分の一の改修費で、3倍の「効果」が生み出せると考えることもできます。



3月定例会 私の一般質問②

厳しさを増す生活環境へ対応した住宅政策について
2つ目の質問は、住宅政策でとりわけ低所得者層の居住と生活支援について質問しました。所得格差も拡大する中であって、生活に困窮する高齢者にまつわる、凄惨な事故や事件も増大し、渋川市にある高齢者静養施設「たまゆら」での施設火災で犠牲になられた方の多くは、都心の方々に、こうした方々へのある種のゆがめられた施策が影を落としていたことも記憶に新しいところです。

新年度からやっと困窮度優先の市営住宅入居「新基準」へ

高柳Q：新年度から市営住宅の入居も仕込み方法に変更があると聞いていますが、少子高齢化や住生活の多様化、そして何より生活に困窮している人の割合が、増えてきている状況下にあって、現在の市営住宅の入居世帯の状況と今後の入居申込を含めた管理運営についてのお考えを伺います。

市長A：平成28年1月末現在で管理する市営住宅全体のうち入居可能な戸数は22団地346戸で、入居戸数は336戸であり、現在の待機者は10名です。

その内訳は、一般世帯が143戸、母子・父子世帯が43戸、高齢者世帯が113戸、障害者世帯等が37戸です。

市営住宅の入居申込みは、群馬県の例にならない今月募集します谷地端第2団地の公募から、優先世帯として、母子・父子世帯、高齢者世帯、障害者世帯等について、抽選に際して優先的な措置を実施する予定です。



◎多世代共生住宅整備事業
7, 99万2000円
老朽化した谷地端団地を、高齢者、障害者、子育て支援等に配慮し、多世代型住宅として整備していくための、基本設計料の計上です。

低所得高齢者等住まい・生活支援モデル事業？

高柳：国では「低所得高齢者等住まい・生活支援モデル事業」を数年前から試行しているようですが、こうした国の事業の研究と本市での具体化について伺います。

市長A：このモデル事業は、自立した生活を送ることが困難な低所得・低資産の概ね60歳以上の高齢者を対象に、空き家等を活用した住まいの確保支援や見守りなどの生活支援を市町村が行い、都道府県が、これらの取り組みを広域的に行うための仕組み作りを支援するもので、平成26年度から全国8箇所の市町村でモデル事業が実施されています。

事業の柱のひとつである「見守りなどの生活支援」では、本市の在宅介護支援センターを中心に、高齢者の日常相談及び、実態把握調査を実施し、住居等に関する相談を行っています。

今後、モデル事業に関する情報収集等を行い、研究していきたいと考えています。



課税標準額段階別所得割額算出表という長く難しい一覧表があります。それによると、沼田市には納税義務者が全体で20, 933人存在し、課税標準額0～10万、10～100万、100～200万円の下方から3段階の所得の方々が15, 774人で、全体の75%を占めています。

家族や親族にちょっとした病気等になるだけで「普通」生活はもろくも崩れてしまうケースが少なくない、そんな市民生活の実態が伺えてしまう数値と考えます。

助けてもらいたいけど、助け合いまでは協力できない！そんな声も聞こえてくる中、沼田市で造り上げなくてはならない「住生活」の在り方とは自問しながらの質問でした。



3月定例会 私の一般質問①「市民協働のまちづくりについて」

～その基本的理念のグリーンベル21での具体化について～

沼田市では、平成19年にサブタイトルを「みんなで育てよう協働の森林(もり)」とした沼田市市民協働推進基本方針を定め、この方針に則り、沼田市保健福祉センター内に市民活動センターを設置し、その推進に向けて努力をしてくれていると理解をしています。

前回の定例議会では、グリーンベル21へ「障害者福祉」をどう具体化していくかを質問をしましたが、今回はそれ以外の「市民活動」の視点で聞いてみました。

「みんなで育てよう協働の森林(もり)」を
グリーンベル21へどう反映？

高柳Q：私は、新しくなるグリーンベル21を「単なる複合施設」ではなく、そこで「新しい公共」が生まれ、育成され、実践され、そして発信されるような施設を目指すべきと考えます。

今回、市民活動センターもグリーンベル21へ移転することが決まり、「再スタート」するこの時期に、本市では市民活動センターを軸にして、NPOやボランティア団体と、どのように活動していくお考えか伺いたいと思います。

市長A：市民活動センターは、平成28年1月末までの登録団体は177団体、個人は15人で、利用人数は1,467人でした。グリーンベル21は、活用基本構想により複合施設に向けた整備を図ることから、利用者の範囲も拡がることから期待出来ます。

現在行っているNPO法人やボランティア団体の活動支援事業、相談事業、啓発事業、情報収集・情報発信事業を、さらに充実させ、新たな人材の育成や団体間の交流による活性化につなげていきたいと考えています。

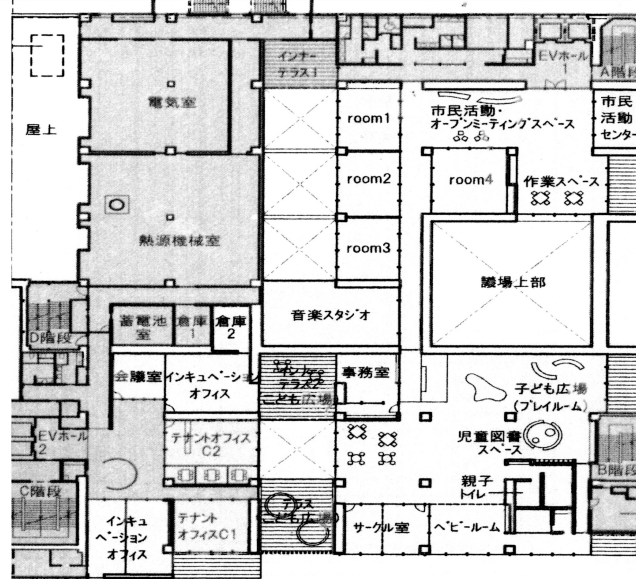
高柳Q：先般、グリーンベル21特別委員会に、グリーンベル21内への具体的配置計画が示されましたが、沼田市としては、「主な市民活動施設」以外の市民活動をグリーンベル21のどの場所でどんな活動を展開してもらいたいのか。また、そのためのスペースはどこに、どれだけ確保しようとしているのか伺います。

市長A：説明会などで寄せられたご意見をはじめ、団体等へも、ご意見を伺いましたので、引き続き、必要なスペースの確保や条件整備など、今後の設計業務の中で、細部の調整を行っていききたいと考えています。

「利根沼田地域ボランティアセンター」
通称「ごったく広場」という
中間支援組織との連携は？

市長A：NPO法人利根沼田地域ボランティアセンターは、平成18年9月の設立で、活動範囲を利根沼田地域に置き、多種多様な活動分野を持ち、中間支援組織としての活動を行っている先駆的なNPO法人です。

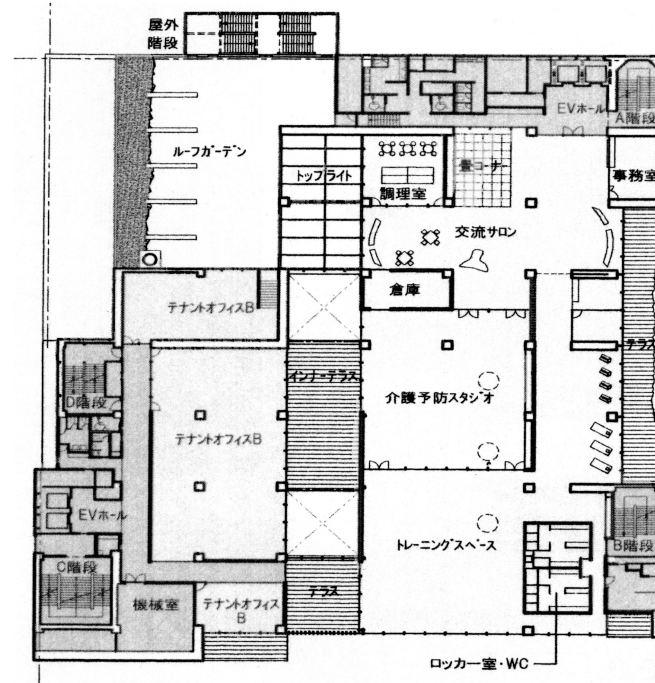
当センターとは、沼田市社会福祉協議会及び、沼田市市民活動センターの三者で情報交換会を行っています。その連携については、市民活動センターの設置目的である「市民活動を育成・支援することで協働のまちづくりを推進する」ために重要であり、これまで培った連携体制を継続して発展させていきたいと考えています。



新複合施設6階の配置図(案)

右上に市民活動センターが配置され、その前が市民協働オープンスペース、作業空間があり、下って音楽スタジオ、「子ども広場」へとつながっています。

1～4の「room」の中身と、左下にテナント、インキュベーション出店予定の空間があるが、障害者相談支援センターの設置や「ごったく広場」との連携場所は？(今後の調整となる?)



新複合施設7階の配置図(案) ↑

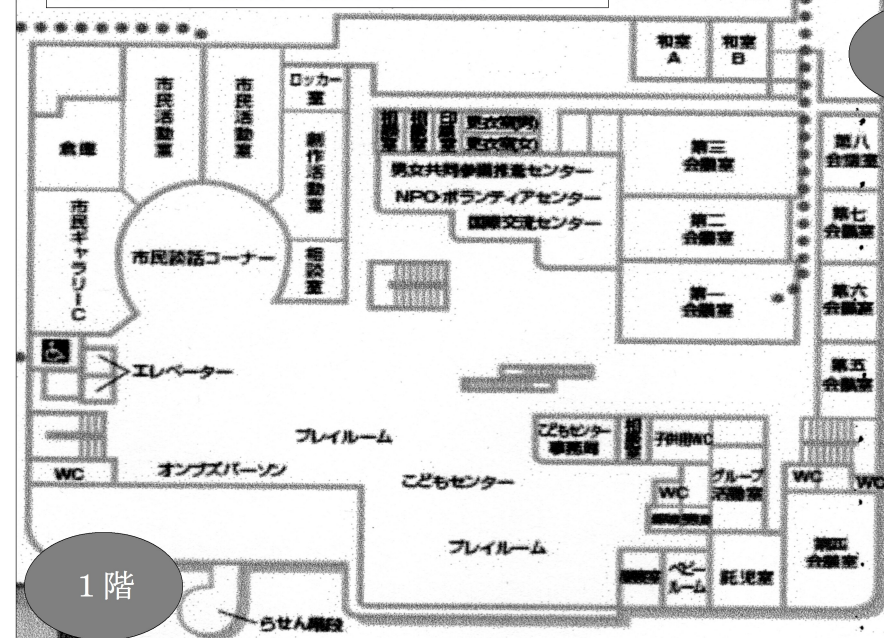
右上に恐らく勤労青少年ホームの事務室が配置され、その前が交流サロン、調理室や畳の間があり、下って介護予防スタジオ、トレーニングスペースへとつながっています。左下へテナントオフィスが3箇所の空間があります。勤労青少年ホームの軽運動室をトレーニングスペースで具体化しようとするれば、「有料」で企業が実施をすることへの「整合性」が求められ、介護予防スタジオとの調整も必要かと思われます。

上越市「市民プラザ」の配置図

それぞれ特徴のある3つの「センター」がオープンカウンターに同居し、1階には、こどもセンターや会議室、市民談話コーナーが配置されています。

2階は、ホールやギャラリーの他、「民間」のパソコン教室、スポーツ倶楽部、カフェ、美容室、アロマやパッケージショップ等が共存しています。

調査してみると自治体によって、社会(生涯)教育、勤労者福利厚生、社



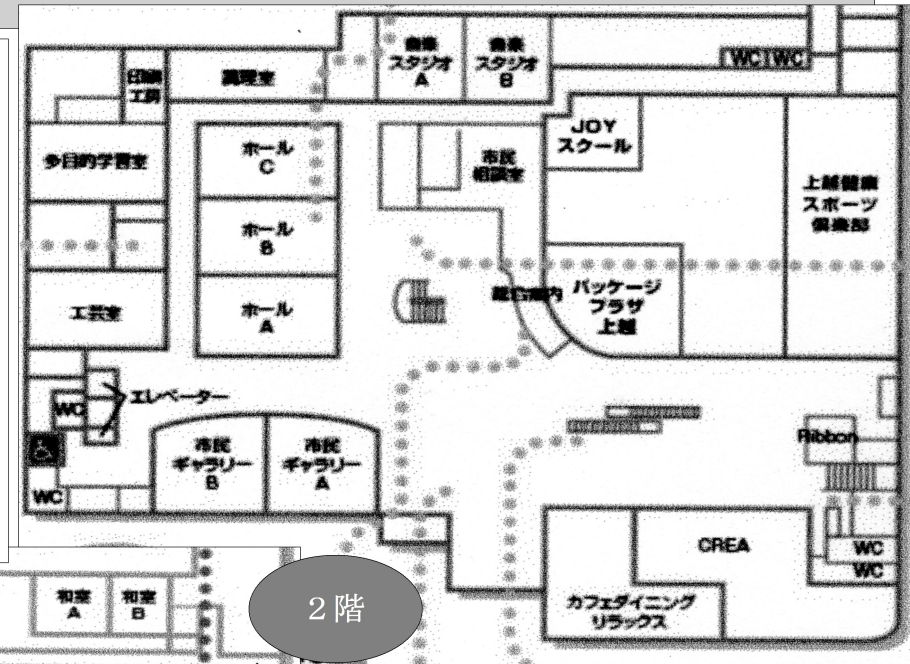
1階



◎勤労青少年ホーム費 1,400万円

講習室2・和室2・調理実習室1・試食室1・大集会室1・軽運動室1・談話室1・音楽室1。利用時間は毎月曜～金曜の午前9時～午後9時。

市内に在住・在勤している勤労青少年であれば誰でもご利用できるコミュニティー広場です。隣は体育館で、スポーツ活動が盛んです。



2階

会福祉、男女共同参画、国際交流など活動支援の方法や場所提供は様々でした。

センターの総合受付や、貸し室管理含めたホームページの運営をNPOと共同で実施している自治体もありました。

上越市は民間の「空きビル」を活用し、長岡市では、斬新な議場と市民交流ホールなどを擁する交流施設、屋根付き広場「ナカドマ」を配置して一躍有名になりました。